

北部営農経済センター
育苗ハウス
第一期工事が完了

11月より着工した、北部営農経済センターアグリサポートセンターの育苗ハウス第一期建設工事が完了し、2月28日に、現地にて受取完成検査と引渡式が実施されました。
今回、建設された単棟2基、連棟2基のハウスは、

令和5年度産水稲育苗作業用施設として活用されます。同センター兼野広志課長は「管内の稲苗の安定供給と品質向上のため、今後も努力してまいります。」と話しています。また、第二期工事では、20畝に4基のハウスが新設予定です。



いちご狩り婚活イベントで
4組のカップル誕生！

徳島市農業委員会とJA徳島市が主催する農業婚活イベントが2月19日に開催され、男性12名、女性13名が参加しました。

イベントは、市内の独身の男性農業者や農家後継者と参加女性にいちご狩りなどを楽しんでもらいながら、交流することでマッチングに繋げ、農業の担い手不足を解消することを目的としています。今年度は3年ぶりの開催となり、定員を上回る応募がありました。はじめに、勝占事務所いちご部会枝川博嗣部会長のハウスで、いちご狩りを楽しみながら、グループ対抗で、いちごの重量当てゲームを行いました。

続いて、ホテル千秋閣の会場では、プロフィールカードをもとに、1対1のフリートークタイムがありました。

最後にマッチングタイムを設け、今回はめでたく4組のカップルが誕生しました。女性参加者からは、「農業に従事する方の仕事について興味が深く、どんな仕事をしているのか、色々と話し合えた。いちご狩りも楽しく、参加できて良かった。」と笑顔が見られ、男性参加者からは、「コロナ禍以降、出かける機会が少なくなっていたため、出会いのチャンスを設けてくれたことに感謝している。」との声がかれました。



写真①は、いちご狩りを楽しみながら会話する参加者。
写真②は、いちごの重量当てゲームの見本を行う枝川部会長。

JA徳島市 物価高騰対策 第2弾について

概要

第1弾の取組では肥料価格高騰対策特別予約と称し、令和4年6月に予約受注し8～10月に配送を行いました肥料に対して、値上額の50%を助成金として交付致しました。

第2弾として、令和5年1月からの価格改定で大幅に値上となった農業について、年特予約品を対象に値上額の50%を助成金として交付致します。

助成対象範囲

令和4年12月までに予約をいただいた農業のうち令和5年5月末日までに配送予定のものを対象とします。

※予約いただいた農業のうち値上となった品目が対象です。

● 対象品目・人数・助成金額（予定）

約190品目 ・ 約1,600人 ・ 約400万円

助成額（例）

品名	規格	新予約単価	旧予約単価	値上額	助成単価
ハーベストオイル	20L	9,370	6,830	2,540	1,270
D-D97	20L	16,940	15,410	1,530	765
クロールピクリン	20L	19,900	18,850	1,050	525
オラクル顆粒水和	300g	8,560	7,700	860	430
ガードナーフロアブル	500ml	8,850	7,990	860	430
デランフロアブル	500ml	3,420	2,570	850	425
ダニエモンフロアブル	250ml	7,900	7,060	840	420
ダントツ粒剤	10kg	8,100	7,320	780	390
シグナムWDG	333g	4,820	4,100	720	360
ユニフォーム粒剤	3kg	5,310	4,650	660	330

※上記品目は対象商品の一部抜粋したものです。

助成金支払日

令和5年6月下旬予定

JAL×「俺の株式会社」がコラボ
徳島県産食材を使用したディナーイベント

コースには「さくらもいちご」も

JA 徳島市管内の
情報をお届け

トピックス

日本航空（JAL）は、徳島県と連携を図り、県産品の魅力発信、地域創生の実現に向け包括連携協定を結び、昨年6月から「JAL ふるさとプロジェクト」において取り組みを進めています。この度、JAL が「俺の株式会社」（東京都中央区）と新たに連携を図り、2月26日、徳島県産食材や伝統工芸品「大谷焼」を活用したディナーイベント「旅するメーカーズディナー」が「俺のフレンチ グランメゾン大手町」（東京都千代田区）にて開催されます。

1月中旬、シェフの神木亮氏と、支配人兼ソムリエの長谷川純一氏が徳島県を訪れ、生産者と交流を行い、県産食材等の選定を行いました。そこで、「さくらもいちご」がコースに使用されることとなり、メニュー考案のため、神木氏と長谷川氏が佐那河内もいちご部会 日下正人副部会長の團場にて、いちごの試食を行いました。

ディナー当日には、徳島県の観光スポットである「大塚国際美術館」をライブ中継で結ぶ他、ディナーイベントに活用された県産品の生産者紹介や観光地の魅力ある映像をスクリーンで上映し、県のPRに繋がります。日本航空徳島支店 土井 英樹 副支店長は、「今後も素晴らしい県産品を県外にPRすべく尽力していきたい。」と話しており、また、佐那河内もいちご部会 栗坂政史部会長は「第一線で活躍する神木氏と長谷川氏の感性で、さくらもいちごがどのように活用されるのか、非常に楽しみにしている。」と話しています。



▲写真は、いちごのハウス前で、いちごのアピールを行う栗坂部会長（左）と、シェフの神木氏（中央左）、支配人兼ソムリエの長谷川氏（中央右）、日下副部会長（右）

さくらもいちご部会
村の受験生をいちごで激励

佐那河内もいちご部会は、2月14日、村の受験生を応援するため、佐那河内中学校の3年生11名に特産の「さくらもいちご」を贈りました。

この活動は、2016年から続けており、今年で8回目になります。同部会 栗坂政史部会長と、部員の香川義裕さんが同校を訪れ、いちごを一人一人に配り、生徒たちはいちごを手にし、「さくらさく！もくひょうもって！いっちごうかく！」と「さくらもいちご」と合格を掛けた合言葉を皆で唱和しました。いちごを食べた生徒は、「激励を頂き感謝します。残り21日間、体調に気を付けながら全力で頑張ります。」と意欲を燃やしていました。栗坂部会長は「自分を信じて頑張ってください。」と期待を込めました。

▶写真は、生徒にいちごを配る香川さん



枝豆 播種作業始まる

北部営農経済センター アグリサポートセンターは、2月初旬から枝豆の播種受託作業を開始しました。5年前から、播種作業の軽減に向け、マルチ播種機を導入し、作業を受託しています。高品質の出荷のため、泥の跳ね返りを防ぎ、土壌の水分と地温の確保ができるマルチ栽培を推進しており、受託作業面積も年々増加しています。昨年度は、30件から約520㍓の依頼がありました。作業は3月末まで続く予定です。今年の枝豆の初出荷は5月初旬の予定です。

▼写真は、マルチ播種機で播種作業をする職員



出荷ピークに向け

菜の花目慣らし会

菜の花の本格出荷に向け、2月17日、職員9名を対象に、中央集出荷場にて目慣らし会を開催しました。

部会では手作業でラベルを巻き、150㍓ずつにして出荷する「束出荷」が伝統となっています。菜の花を束にする出荷調整作業は、個々によって多様であるため、品質をさらに統一することが課題とされています。

市場からは、束が芸術品のように揃っていると高く評価され、県外から視察依頼もある産地であるため、さらなる品質維持に向け、束にしたときの高さを揃え、色目を揃えることの徹底を生産者へ促す等、検査時の注意点が共有されました。





特集

金のシールに化粧箱 達磨キウイフルーツの 販売戦略

果樹選果場では、毎年12月中旬から、1個あたりの重量は175g²を超える大ぶりの、ブランドキウイ『達磨(だるま)キウイフルーツ』の出荷を行っています。

1玉ずつ丁寧に包装し、達磨が描かれた金の帯(装飾のシール)を結び、化粧箱に入れて販売しています。

出荷開始は、平成22年。当時、規格外の大玉キウイフルーツは袋詰め等で、販売していましたが人気はありませんでした。本来、落葉果樹は果実が大きいほど高単価で販売されることが多いのですが、規格外の大玉キウイフルーツには、それが当てはまらないことから、当時の販売担当者などが、販売方法を改めて検討しました。

その結果、大玉果実のみを化粧箱に入れて販売する案が採用されました。同じ佐那河内村の「ももいちご」(「さくらももいちご」の前身)の化粧箱とほぼ同じサイズの化粧箱に入れることで、いちごと一緒に重ねて持ち運べ、贈答用としてのニーズが生み出せたらと、箱に合わせて果実は8個入りになりました。

販売1年目の販売数はたった73袋で成果は上がりませんでした。しかし、2年目に市場を通じて、青果物貿易商社の目に留まり、主に台湾、香港に輸出され、5倍の342袋を販売しました。

中国・台湾圏では数字の8の数字は財をもたらす縁起の良い数字とされており、また、慶事には金が好きまれるため、8玉入りで金のシールを装飾した、旧正月の時期に出荷のピークを迎える達磨キウイフルーツは贈答用として最適でした。

販売4年目には、全体的に果実が大玉傾向だったこともあり、1,923袋(前年比5倍)を販売しました。達磨キウイフルーツは管内の生産量約2パーセントという僅かな量ではありますが、少しでも価値を付け、消費者に味わってもらいたいという生産者の思いが思わぬ形で人気に火をつけました。

今年度産は、3,040袋の出荷を予定しており、約半数が輸出用です。出荷は3月まで続く予定です。同選果場 日開潤課長は「生産者・JA共に手間暇かけて出来上がる商品。今年も高品質な出荷に努め、たくさんの人に味わってもらえたら。」と話しました。



NEW!

勝占事務所 よりそいプラザを有効活用 絵画サークルが利用

1月から勝占事務所では、2階の小会議室で絵画サークルが、絵画教室を開催しています。

西川敬子さんが主催する、絵画サークル「フラワーグループ」が、月3回木曜日に約7名で利用しています。これは、地域活性化の一環として支所・事務所の空きスペースを、「営利目的ではない団体」であれば、希望団体へ、使用目的等の必要事項などを提出していただいた上で、無償で提供を行っているものです。

絵画教室を主催する西川さんは、「定期的に借りられる場所探しに困っていたが、駐車場等の様々な心配もなく、快適に借りさせていただいています。ほんとに感謝しています。」と話しています。同事務所 樋口貴文 事務所長は、「今後も地域のふれあいの場として有効に使っていただき、もっとJAを身近に感じていただけるよう努力していきたいです。」と話しています。



東條研二さん(50) 就農から2年目

就農のきっかけ

北井上事務所管内の東條研二さん(50)は、就農して2年目を迎えました。就農前は、農業機械販売業社に約20年勤務していました。3年前に農業を営む父・利行さん(74)が体調を崩し、ゆくゆくは、家業を継ぐことを決めていたため、これを機に就農を決意しました。

現在の状況

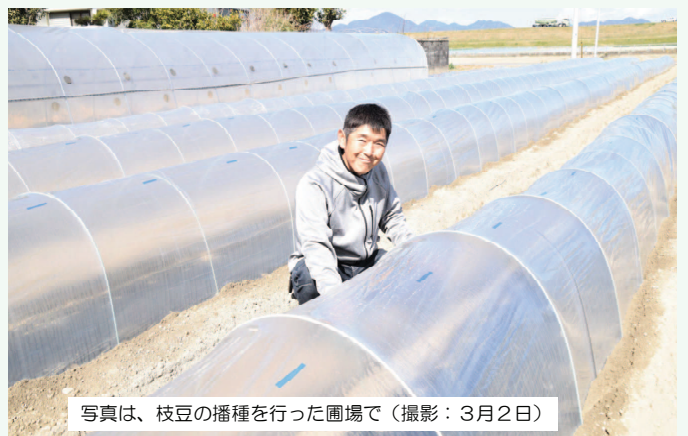
カリフラワー50畝、枝豆20畝、ブロッコリー10畝を栽培しています。品目ごとの栽培管理のために、近隣農家や営農指導員と連携しながら知識習得に努めています。就農してみて、率直に仕事が面白いと感じるそうですが、体力的には負担が大きいと、体が資本だということを改めて実感しました。前職で専門分野だったこともあり農機の準備作業、メンテナンス、操作はお手の物。やはり、機械に触っている時間は心弾みます。30年前に購入した、父の代から使用しているトラクターも定期的なメンテナンスによって現役バリバリで活躍中です。半面、苦勞を感じることは、今現在は、手作業でしかできないこともあるので、計画的な機械導入を図り、効率化につなげたいと意気込みます。

今後の目標は!

「多品目の作物を栽培した経営を目標としているので、現在、自分に合った作物、地域性に合った作物を選定していきたい。また、一定の目途が立てば、雇用も視野に入れ、面積拡大を図り安定的に出荷できる体制をつくりあげたい。」

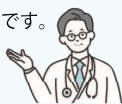
プライベートでは

「冬場は必ず、妻、子どもたちと4人で毎月スキーに行くのが恒例。日帰りになってしまうが、どんなに忙しくても、家族のレジャーとして今後も続けていきたい。」



写真は、枝豆の播種を行った圃場で(撮影:3月2日)

みなさん、こんにちは。徳島往診クリニックの吉田です。
新型コロナウイルス感染症が「5類」に引き下げられることを受けて、今回からは「在宅輸血」とそれに関連したトピックスをしばらくお話ししたいと思います。



社会の高齢化に伴い、血液癌等で長期にわたり輸血療法を続ける方が増えています。その多くの方は、週1回から2回の通院での輸血を余儀なくされたり、輸血だけのために入院を強いられるといった状況が見受けられます。通院で定期的に輸血を受けている方も、加齢に伴うADL低下のため大変な労力を要するようになるでしょう。わが国では長い間、在宅での輸血はその安全性から否定的な意見が多くタブー視されてきましたが、欧米の高齢化の進む都市部では通院困難を理由に在宅輸血が普及し、社会的にも受け入れられているといえます。当院では、2014年5月から在宅輸血を開始しており、これまでに200例近くの経験を積み重ねてきました。輸血は単なる延命ではなく、高度貧血による強い倦怠感や息切れに対する緩和ケアのとても有効な手段との認識を深めています。

血液疾患では、骨髄異形成症候群や白血病・多発性骨髄腫・再生不良性貧血等が、非血液疾患では胃癌や大腸癌からの慢性的下血や膀胱癌からの慢性的血尿等が在宅輸血のよい適応となります。逆に、急性の大量出血や輸血の度にアレルギー反応を呈する症例は不適當です。血液疾患患者では、生命維持のために輸血依存状態であり、かつADLの低下により通院での輸血困難となった患者、非血液疾患では各種癌からの出血・あるいは骨転移等での骨髄抑制による貧血・血小板減少状態であっても、輸血により症状改善が望める「緩和ケア」的意義の大きい患者さんを対象としています。

当院では在宅輸血で使用できる製剤として、照射赤血球液-LR「日赤」・照射濃厚血小板-LR「日赤」・照射洗浄血小板-LR「日赤」に対応していますが、血小板HLA-LRは準備が難しく非対応となっています。

当院への紹介経路としては、病院の地域連携室からが95%を占めていますが、輸血目的で外来に長期通院していた患者・家族が、地域連携室からの紹介前に在宅輸血が可能であることを知っていたというケースは希でした。今後、在宅輸血を一般的な情報としてしっかり普及させていきたいと思っております。

在宅輸血の依頼があった場合は受け入れ前に外来・病棟あるいは自宅等で、事前の面談をするようにしています。血液疾患により輸血依存である場合は、ADL低下により通院困難となっているケースがほとんどですが、癌により消化管等からの出血がある場合には、輸血可能なのはあくまで緩和ケアの効果の認められる期間に限られることを理解して頂けるようお話しするためです。入院中であれば、退院カンファレンスを開催して頂きますが、どのような場合であれ、

○キーパーソンと在宅医療・介護スタッフとの「風通しのいい」人間関係を構築できること

○急変時は病院・専門科で受け入れ可能であることを確認しておくことが、在宅輸血・在宅療養継続にとって必要と考えています。

また、病棟や病院外来での輸血と在宅輸血での違いを事前に了解して頂くこともお願いしています。病棟や病院外来では、赤血球製剤と血小板製剤を続けて輸血することや多くの単位を複数の製剤パックで輸血することができますが、自宅ではできないこと・血液検査や適当試験を外注しているため、採血目的での頻回訪問が必要になることを理解して頂き、後々のトラブル回避に備えています。事前に必要な情報として、一般的な診療情報提供書に加えて、血液型の検査結果コピーと直近2週間から1ヶ月程度の輸血履歴・血液データを提供して頂き、在宅輸血が円滑に開始できるよう努めています。



▲満開を迎えた本所の河津桜（3月3日）

▶佐那河内選果場から関東へチャーター便で出荷される貯蔵みかん（2月中旬）



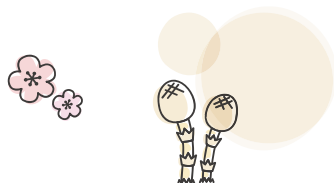
理事会だより（令和5年2月27日）

協議事項

- (1) 北部営農経済センター 太陽光発電設備の取得計画について（可決）
- (2) 新聞広告の掲載について（可決）
- (3) 令和4年度 不稼働・遊休資産の追加について（可決）
- (4) 総代改選について（可決）
- (5) 3億円超の信用の供与について（可決）
- (6) 出資口数の一部減口について（可決）
- (7) その他

報告事項

- (1) 旧戸井集荷場の売却について
- (2) 債権回収について
- (3) 令和4年度下期内部監査報告書について
- (4) JA徳島市物価高騰対策 第2弾について
- (5) 電子交換所取扱に伴う手数料変更について
- (6) 前回金融共済委員会および営農経済委員会の協議内容について
- (7) 理事会決議事項処理状況報告
- (8) 徳島県による令和4年度 常例検査の結果について
- (9) 職制規程 別表の変更について
- (10) その他



島田清弁護士の無料法律相談

通常通り開催いたしますが新型コロナウイルスの感染状況によりましては開催できない場合がございます。

- 日時** 第3土曜日 9:00~12:00
- 申込先** 金融共済部へ事前に予約が必要
☎088-622-8003
- 場所** 本所1階金融相談室

賀上延啓税理士事務所の無料税務相談

下記の通り開催予定ですが、新型コロナウイルスの感染状況によりましては、開催できない場合がございますのでご了承ください。

- 日時** 4月5日(水)、11日(火)、20日(木)
9:30~15:00
※4月につきましては、上記日程で開催させていただきますので、ご注意ください。
- 申込先** 総務部へ事前に予約が必要
☎088-622-6335
- 場所** 本所1階金融相談室